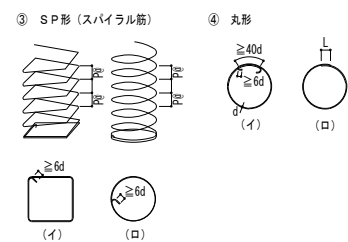
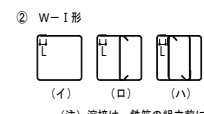
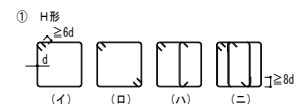


特記仕様書の適用			章	節	項目	特記事項	章	節	項目	特記事項																																																																															
<p>1. 共通仕様 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官制監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年度版）」（以下、「標準仕様」という。）による。</p> <p>2. 特記仕様 a. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と◎印の付いた場合は、両方とも適用する。 b. 各章の節、項の番号は、標準仕様の当該番号に対応する。 c. (表) (図) の番号は「標準仕様の当該番号」を表す。 d. [G]印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。</p>					<p>3 ① 捨コンクリート地業 a. 設計基準強度 ※18 N/mm² (4.6.4) b. 厚さ ※50mm c. 使用位置 ◎基礎底版下 ・その他() ・基礎梁下 ・土間スラブ下 ・土間コンクリート下</p> <p>4 ② 床板防湿層 土間スラブ下及び土間コンクリート下は地業の上にポリエチレンシート厚0.15を敷く (4.6.5)</p> <p>5 ③ 置換コンクリート地業 a. コンクリート ※普通コンクリート (6.1.4)~(6.1.3) ※設計基準強度 18 kN/mm² b. コンクリートの強度補正 設計基準強度を満足させるよう定める。(補正などは行わない)</p> <p>6 ④ 地盤改良地業 a. 工法 工法名: () ・法層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は設計図による () ・深層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は設計図による () b. 六価クロム溶出試験 ※行う ・行わない</p>			<p>3 ① 技能資格者 a. 技能資格者の資格: JIS Z 3881による(※2種以上)の有資格者 b. 技能資格者の技量検定試験 ※行わない ・行なう</p> <p>2 ② 圧接完了後の試験 a. ガス圧接については、圧接作業終了後の外観試験及び圧接試験を行う。検査及び試験の要領は(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。 b. 圧接試験の方法 ※ 超音波探傷試験 1) 引張試験の試験機関は原則として公的試験所とする。 2) 超音波探傷試験の試験従事者は当該工事のガス圧接作業に従事しない者とし、技量及び試験の証明となる資料により監理者の承諾をうける。超音波試験の検査ロットは引張試験と同様とする。試験方法・判定基準は、JIS Z 3062によるものとし、試験の要領は(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。 c. 継手が溶接その他の特殊な工法による場合の試験は、前b号に準ずる圧接試験を行う。 d. 超音波探傷試験の試験技術者は(社)日本鉄筋継手協会による超音波探傷検査技術者(※A)種とする。 圧接完了後の試験の採取率及び判定基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験方法</th> <th>ロット区分及び試料数</th> <th>ロット当たりの採取本数及び採取率</th> <th>判定基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>引張試験</td> <td>同一作業班が一日に施工した圧接箇所かつ200カ所程度以下を1ロットとする</td> <td>引張試験採取本数(※3本)</td> <td>引張試験では試料のすべてが、「最大引張強さが母材規格強度以上」を満足すること。超音波探傷試験ではJIS Z 3063に示す判定基準にてすべての箇所が合格すること。不合格の場合は、5.4.10による。</td> </tr> <tr> <td>超音波探傷試験</td> <td></td> <td>超音波探傷試験の採取率(※30本)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	試験方法	ロット区分及び試料数	ロット当たりの採取本数及び採取率	判定基準	引張試験	同一作業班が一日に施工した圧接箇所かつ200カ所程度以下を1ロットとする	引張試験採取本数(※3本)	引張試験では試料のすべてが、「最大引張強さが母材規格強度以上」を満足すること。超音波探傷試験ではJIS Z 3063に示す判定基準にてすべての箇所が合格すること。不合格の場合は、5.4.10による。	超音波探傷試験		超音波探傷試験の採取率(※30本)																																																																						
試験方法	ロット区分及び試料数	ロット当たりの採取本数及び採取率	判定基準																																																																																						
引張試験	同一作業班が一日に施工した圧接箇所かつ200カ所程度以下を1ロットとする	引張試験採取本数(※3本)	引張試験では試料のすべてが、「最大引張強さが母材規格強度以上」を満足すること。超音波探傷試験ではJIS Z 3063に示す判定基準にてすべての箇所が合格すること。不合格の場合は、5.4.10による。																																																																																						
超音波探傷試験		超音波探傷試験の採取率(※30本)																																																																																							
4	2	試験杭	<p>a. 試験杭の位置及び本数 ※最初の1本 ・設計図による(各期毎実施)</p> <p>b. 試験杭の杭長は(※本杭+1000mm) ・本杭と同じ)とする。 断面が変化する杭においては上部断面の杭長を大きくすること。 c. 試験杭の結果より、杭長を調整する場合がある。</p>																																																																																						
4	3	杭の載荷試験	<p>a. 杭の鉛直載荷試験 ※行わない ・行う(次による)</p> <p>1) 杭径(φ) 個所数(カ所) 最大載荷重(kN)</p> <p>2) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。</p> <p>b. 杭の水平載荷試験 ※行わない ・行う(次による)</p> <p>1) 杭径(φ) 個所数(カ所) 最大載荷重(kN)</p> <p>2) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。</p>																																																																																						
4	4	地盤の載荷試験	<p>a. 平板載荷試験 ※行わない ・行う(次による)</p> <p>1) 個所数(カ所) 試験深さ(SGL-m)</p> <p>2) 対象地盤() 最大載荷重(kN)</p> <p>3) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。</p>																																																																																						
4	3	1 材料	<p>a. 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※設計図による (4.3.2)</p> <p>b. 先端部形状 ※開放型 ・閉塞平たん形 (4.3.2)</p> <p>c. 杭の継手 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手を使用してもよい。(4.3.6)</p> <p>d. 杭頭処理 ※切断しない (4.3.7)</p> <p>e. ネガティブフリクション対策 ※不要 ・要(設計図による)</p>																																																																																						
4	2	セメントミルク工法	<p>a. アースオーガーの支持地盤への掘削深さ 1.5m程度 ※杭先端深さ 支持層より 1.0m以上 ※杭の止まり 0.5m以下</p> <p>b. 根固め液の使用 ・あり ・なし</p> <p>c. 杭周固定液の使用 ・あり ・なし</p>																																																																																						
4	3	特定埋込杭工法	<p>a. 施工法 工法 プレボリング拡大根固め工法 ・中盤り拡大根固め工法 ・その他(日本コンクリート工業(株):Hyper-ストレート工法) 杭周固定液 ・使用する ・使用しない</p>																																																																																						
4	4	杭頭補強筋	既製品コンクリート杭の杭頭に用いる杭頭補強筋は設計図による																																																																																						
4	1	材料	<p>a. 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※設計図による (4.4.2)</p> <p>b. 杭の継手 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手を使用してもよい。(4.4.5)</p> <p>c. 杭頭処理 特記による (4.4.6)</p>																																																																																						
4	2	工法	<p>・打込み杭工法 (4.4.3~4)</p> <p>・特定埋込杭工法 (回転圧入鋼管杭工法(大臣認定工法 認定番号:建設省東住指発第238号))</p>																																																																																						
4	1	材料	<p>a. 杭径・杭長・長期許容支持力 ※設計図による (4.5.3)</p> <p>b. 鉄筋 5章による (4.5.3)</p> <p>c. コンクリート ※高炉セメントB種 ・その他() (4.5.3) 設計基準強度 kN/mm² ・A種 ・B種</p> <p>d. コンクリートの強度補正 設計基準強度を満足させるよう定める (4.5.3)</p> <p>e. 鋼管の使用 ※なし ・あり (4.5.5)</p>																																																																																						
4	2	工法	<p>・アースドリル工法 ・リバース工法 (4.5.4)</p> <p>・オールケーシング工法 ・その他()</p>																																																																																						
4	3	試験	超音波測定器による孔壁測定 ・行う ・行わない (4.5.4)																																																																																						
4	1	材料	a. 砂利地業の材料 ※再生クラッシュラン ・切込み砂利及び切込み砕石 (4.6.2)																																																																																						
4	2	砂利及び砂地業	<p>a. 杭基礎底版下 ※60mm ・100mm ・150mm (4.6.3)</p> <p>b. 基礎梁下 ※60mm ・100mm</p> <p>c. 土間スラブ下 ※60mm ・100mm</p> <p>d. 土間コンクリート下 ※60mm ・100mm</p>																																																																																						
5	1	材料	<p>① 鉄筋</p> <p>a. 異形鉄筋SDはD38以下、丸鋼SR235及びSR295は13mm以下に適用する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格名称</th> <th>種類の記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>異形鉄筋</td> <td>◎SD295A</td> <td>設計図による</td> <td>D10~D16</td> <td>JIS規格品</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎SD345</td> <td>設計図による</td> <td>D19~D22</td> <td>JIS規格品</td> </tr> <tr> <td>(鉄筋コンクリート用棒鋼)</td> <td>・SD390</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・SD490</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>溶接閉鎖型せん断補強筋(大臣認定品または性能評価取得品)</td> <td>・SD295A</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・SD295B</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高強度せん断補強筋(大臣認定品または性能評価取得品)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>c. 閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。</p> <p>② 溶接金網</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径・寸法・形状</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎溶接金網</td> <td>WFP</td> <td>鉄骨階段踏面、屋上床 合成スラブコンクリート 配管埋設用コンクリート スラブ内埋設管の集密部分</td> <td>φ2.6-5.0x5.0 φ6-150x150 (φ6-100x100)</td> <td>JIS規格品</td> </tr> <tr> <td>鉄筋格子</td> <td>SD295A</td> <td>壁・スラブ開口補強</td> <td>D10、D13</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 組立</p> <p>a. 鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー・吊金物を使用して行う。 なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重などに耐えられるものとする。材質は原則として鋼製とし、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。</p> <p>b. 組立に関する注意事項 1) コンクリート打込み後のさし筋は行わない。 2) 鉄筋の台直しは原則として行わない。やむを得ず台直しを行う場合は、鉄筋まわりのコンクリートをはつり取り、勾配が1/6以下の出来るだけ長い距離で修正する。</p> <p>c. 直接、捨てコンクリートの上に設置する仮設金物の下には止水処置を施す。</p> <p>④ 継手及び付着</p> <p>a. 継手の工法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位など</th> <th colspan="2">継手工法と適用径の範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱主筋</td> <td>※重ね継手() ・溶接継手()</td> <td>※ガス圧接(D19~D22) ・機械式継手()</td> </tr> <tr> <td>梁主筋</td> <td>※重ね継手() ・溶接継手()</td> <td>※ガス圧接(D19~D22) ・機械式継手()</td> </tr> <tr> <td>スラブ、壁筋</td> <td>※重ね継手(D10~D16) ・溶接継手()</td> <td>・ガス圧接() ・機械式継手()</td> </tr> <tr> <td>杭主筋</td> <td>※重ね継手() ・溶接継手()</td> <td>※ガス圧接() ・機械式継手()</td> </tr> </tbody> </table> <p>b. 特殊な鉄筋継手 ・機械式継手 ・溶接継手 特殊な機械式継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。 告示1463号に示す(※SA級)工法: ()</p> <p>① 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔</p> <p>a. 最小かぶり厚さは目地から算定する</p> <p>b. 鉄筋のかぶり厚さの設計用かぶり厚さに対する許容差は、床スラブ・屋根スラブにあっては+5mm、-0mm、その他の部位にあっては±10mmとする。</p> <p>c. 設計図にて寸法指定箇所を除き、設計図に示す鉄筋本数を等間隔に割り付ける。</p> <p>d. 軽量コンクリートのかぶり厚さ ※設計かぶり厚さに10mm加える</p> <p>e. 耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは次による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>設計用かぶり厚さに加える寸法(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外気に接する打放し面</td> <td>※10</td> </tr> </tbody> </table> <p>f. 特殊な鉄筋継手のあき ※設計図による。</p>	規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径(mm)	備考	異形鉄筋	◎SD295A	設計図による	D10~D16	JIS規格品		◎SD345	設計図による	D19~D22	JIS規格品	(鉄筋コンクリート用棒鋼)	・SD390	設計図による				・SD490				溶接閉鎖型せん断補強筋(大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295A					・SD295B				高強度せん断補強筋(大臣認定品または性能評価取得品)					種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考	◎溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面、屋上床 合成スラブコンクリート 配管埋設用コンクリート スラブ内埋設管の集密部分	φ2.6-5.0x5.0 φ6-150x150 (φ6-100x100)	JIS規格品	鉄筋格子	SD295A	壁・スラブ開口補強	D10、D13		部位など	継手工法と適用径の範囲		柱主筋	※重ね継手() ・溶接継手()	※ガス圧接(D19~D22) ・機械式継手()	梁主筋	※重ね継手() ・溶接継手()	※ガス圧接(D19~D22) ・機械式継手()	スラブ、壁筋	※重ね継手(D10~D16) ・溶接継手()	・ガス圧接() ・機械式継手()	杭主筋	※重ね継手() ・溶接継手()	※ガス圧接() ・機械式継手()	施工箇所	設計用かぶり厚さに加える寸法(mm)	外気に接する打放し面	※10												
規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径(mm)	備考																																																																																					
異形鉄筋	◎SD295A	設計図による	D10~D16	JIS規格品																																																																																					
	◎SD345	設計図による	D19~D22	JIS規格品																																																																																					
(鉄筋コンクリート用棒鋼)	・SD390	設計図による																																																																																							
	・SD490																																																																																								
溶接閉鎖型せん断補強筋(大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295A																																																																																								
	・SD295B																																																																																								
高強度せん断補強筋(大臣認定品または性能評価取得品)																																																																																									
種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考																																																																																					
◎溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面、屋上床 合成スラブコンクリート 配管埋設用コンクリート スラブ内埋設管の集密部分	φ2.6-5.0x5.0 φ6-150x150 (φ6-100x100)	JIS規格品																																																																																					
鉄筋格子	SD295A	壁・スラブ開口補強	D10、D13																																																																																						
部位など	継手工法と適用径の範囲																																																																																								
柱主筋	※重ね継手() ・溶接継手()	※ガス圧接(D19~D22) ・機械式継手()																																																																																							
梁主筋	※重ね継手() ・溶接継手()	※ガス圧接(D19~D22) ・機械式継手()																																																																																							
スラブ、壁筋	※重ね継手(D10~D16) ・溶接継手()	・ガス圧接() ・機械式継手()																																																																																							
杭主筋	※重ね継手() ・溶接継手()	※ガス圧接() ・機械式継手()																																																																																							
施工箇所	設計用かぶり厚さに加える寸法(mm)																																																																																								
外気に接する打放し面	※10																																																																																								
6	1	一般事項	<p>① コンクリートの種類</p> <p>② レディーミクスト</p> <p>③ コンクリートの強度</p> <p>④ 気乾単位容積質量</p> <p>⑤ ワークability及びスランブ</p> <p>⑥ 材料及び調査の条件</p> <p>⑦ 調査管理強度</p>																																																																																						
6	2	コンクリートの品質	<p>a. コンクリートの種類 (6.1.3) (6.1.4) (6.2.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>コンクリートの種類</th> <th>設計基準強度F_c(N/mm²)</th> <th>所要スランブ(c.m)</th> <th>単位水量の上限値(kg/m³)</th> <th>使用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F_c24</td> <td>18</td> <td>185</td> <td>1階構造躯体</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F_c18</td> <td>15</td> <td>185</td> <td>雑コン・土間コン</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>普通コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>普通コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>普通コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>普通コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>普通コンクリート</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>b. レディーミクストコンクリートの種類 (6.1.5) ※I類 ・II類</p> <p>c. 普通コンクリートの気乾単位容積質量 (6.2.2) ※2.3t/m³ ()t/m³</p> <p>d. 調査管理強度は、設計基準強度F_cに、下表に示す構造体強度補正值(S)を加えた値以上、かつ、品質に関する規定を満たすものとする。 構造体強度補正值(S)は下表により、セメントの種類及びコンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>セメントの種類</th> <th>コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θ(°C)</th> <th>構造体強度補正值(S)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通ポルトランドセメント</td> <td>8≤θ</td> <td>0≤θ<8</td> </tr> <tr> <td>混合セメントA種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>単強ポルトランドセメント</td> <td>5≤θ</td> <td>0≤θ<5</td> </tr> <tr> <td>中座熱ポルトランドセメント</td> <td>11≤θ</td> <td>0≤θ<11</td> </tr> <tr> <td>低熱ポルトランドセメント</td> <td>14≤θ</td> <td>0≤θ<14</td> </tr> <tr> <td>高炉セメントB種</td> <td>13≤θ</td> <td>0≤θ<13</td> </tr> <tr> <td>フライアッシュセメントB種</td> <td>9≤θ</td> <td>0≤θ<9</td> </tr> <tr> <td>構造体強度補正值(S)</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>e. 特殊な要求性能におけるコンクリート</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>特殊な要求性能</th> <th>適用範囲</th> <th>措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	コンクリートの種類	設計基準強度F _c (N/mm ²)	所要スランブ(c.m)	単位水量の上限値(kg/m ³)	使用箇所	1	普通コンクリート	F _c 24	18	185	1階構造躯体	2	普通コンクリート	F _c 18	15	185	雑コン・土間コン	3	普通コンクリート					4	普通コンクリート					5	普通コンクリート					6	普通コンクリート					7	普通コンクリート					セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θ(°C)	構造体強度補正值(S)	普通ポルトランドセメント	8≤θ	0≤θ<8	混合セメントA種			単強ポルトランドセメント	5≤θ	0≤θ<5	中座熱ポルトランドセメント	11≤θ	0≤θ<11	低熱ポルトランドセメント	14≤θ	0≤θ<14	高炉セメントB種	13≤θ	0≤θ<13	フライアッシュセメントB種	9≤θ	0≤θ<9	構造体強度補正值(S)	3	6	特殊な要求性能	適用範囲	措置								
番号	コンクリートの種類	設計基準強度F _c (N/mm ²)	所要スランブ(c.m)	単位水量の上限値(kg/m ³)	使用箇所																																																																																				
1	普通コンクリート	F _c 24	18	185	1階構造躯体																																																																																				
2	普通コンクリート	F _c 18	15	185	雑コン・土間コン																																																																																				
3	普通コンクリート																																																																																								
4	普通コンクリート																																																																																								
5	普通コンクリート																																																																																								
6	普通コンクリート																																																																																								
7	普通コンクリート																																																																																								
セメントの種類	コンクリートの打ち込みから材齢28日までの予想平均気温θ(°C)	構造体強度補正值(S)																																																																																							
普通ポルトランドセメント	8≤θ	0≤θ<8																																																																																							
混合セメントA種																																																																																									
単強ポルトランドセメント	5≤θ	0≤θ<5																																																																																							
中座熱ポルトランドセメント	11≤θ	0≤θ<11																																																																																							
低熱ポルトランドセメント	14≤θ	0≤θ<14																																																																																							
高炉セメントB種	13≤θ	0≤θ<13																																																																																							
フライアッシュセメントB種	9≤θ	0≤θ<9																																																																																							
構造体強度補正值(S)	3	6																																																																																							
特殊な要求性能	適用範囲	措置																																																																																							
6	3	コンクリートの材料	<p>① セメント (6.3.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>使用箇所(コンクリート番号)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※普通ポルトランドセメント</td> <td>1,2</td> </tr> <tr> <td>・高炉セメントB種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>② 骨材 (6.3.3)</p> <p>細骨材及び混合細骨材 ・フェロニッケルスラグ細骨材 [G] 使用部位() ・鋼スラグ細骨材 [G] 使用部位() ・電気炉酸スラグ細骨材 [G] 使用部位()</p> <p>砂利及び砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B (6.3.3)</p> <p>砕石及び砕砂のアルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B (6.3.3)</p>	種類	使用箇所(コンクリート番号)	※普通ポルトランドセメント	1,2	・高炉セメントB種																																																																																	
種類	使用箇所(コンクリート番号)																																																																																								
※普通ポルトランドセメント	1,2																																																																																								
・高炉セメントB種																																																																																									

章	節	項目	特記事項	章	節	項目	特記事項	章	節	項目	特記事項					
6	3	③ 混和剤	a. 混和剤の種類及び適用 (下記のものを使用可とする) (6.3.5)	6	3	MCR工法	MCR工法を行う場合は、せき板面にMCR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上げ面凹凸状態とする。(6.9.4)	7	2	3	溶融亜鉛めっき高力ボルト	a. ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・鉄骨標準図その1～その4による ・その他 ()				
			b. 促進型ものは原則として使用しない。 c. 現場にて、使用する混和剤については、施工性を考慮の上、決定すること。				b. 磨擦面の処理 ※プラスチック処理 (表面粗度50μmR以上) ・リソ酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※すべり耐力試験方法等 ・図示									
			種類				備考					b. 磨擦面の処理 ※プラスチック処理 (表面粗度50μmR以上) ・リソ酸塩処理 すべり耐力等の確認方法 ※すべり耐力試験方法等 ・図示				
	4	4	④ 混和材		a. 混和材の種類及び適用 (下記のものを使用可とする) (6.3.5)	4	④ 普通ボルト		a. ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ・鉄骨標準図その1～その4による							
	5	5	⑤ 混和材の使用量		※ 標仕6.4.8(a)、(b)、(c)による (6.4.8)	5	⑤ 鉄骨工作仮組		・行う ※行わない (6.3.10)							
	6	1	① 一般事項		a. 常時土あるいは水に直接接する部分 軽量コンクリートを ※用いない ・用いる b. 軽量コンクリートの種類 ・1種 気乾単位容積質量 () t / m ・2種 気乾単位容積質量 () t / m	5	⑤ 溶接接合		a. 開先の形状 ※鉄骨標準図その1～その4による ・その他 () (7.6.7) b. 鋼製エンドタブの切除する部分 ※図示 (7.6.7) c. スカラップの形状 ※鉄骨標準図その1～その4による ・その他 () ・ノンスカラップ工法を採用する場合、監理者の承諾を得る。							
4	1	一般事項	a. 常時土あるいは水に直接接する部分 軽量コンクリートを ※用いない ・用いる (6.11.1)	8	5	⑤ 型枠の存置期間及び取外し	a. せき板及び支柱の最小存置期間は下表による。(6.9.5)	7	2	7	⑦ 溶接部の試験	a. 超音波探傷試験 ※行う 工場溶接の場合 AOQL (%) ※4.0・2.5 検査水準 ※すべて ※第6水準 工事現場溶接の場合 AOQL (%) ※4.0・2.5 b. 放射線透過試験 ※行わない ・行う (7.6.11) c. マクロ試験 (エンドタブ使用) ※行わない ・行う (7.6.11)				
			b. 原則として、A E 剤、A E 減水剤又は高性能 A E 減水剤を使用する。(6.12.2)				表6.9.2 せき板の最小存置期間					a. 呼び名等 呼び名 呼び長さ (mm) 適用箇所 ・ 16 110 2F~4Fスラブの小梁 ・ 19 110 2F~4Fスラブラの大梁 ・ 22				
			c. 現場にて、使用する混和剤については、施工性を考慮の上、決定すること。(6.12.3)				表6.9.3 支柱の最小存置期間					表6.9.2 せき板の最小存置期間				
5	1	① 一般事項	a. 寒中コンクリートの適用期間は、特記による。(6.12.1)	1	6	⑥ コンクリートの仕上げ	a. 部材の位置及び断面寸法の許容差 ※標仕表6.2.2による (6.2.5) (表6.2.2)	7	2	8	スタッド (頭付きスタッド JIS B 1198)	a. 呼び名等 呼び名 呼び長さ (mm) 適用箇所 ・ 16 110 2F~4Fスラブの小梁 ・ 19 110 2F~4Fスラブラの大梁 ・ 22				
2	② 材料	a. 骨材は水雪の混入及び凍結していないものを使用することとする。(6.12.2)	b. 合板せき板を用いるコンクリートの打直し仕上げの種類 (6.2.5) (表6.2.3) (6.9.3)				b. 放射線透過試験 ※行わない ・行う (7.6.11) c. マクロ試験 (エンドタブ使用) ※行わない ・行う (7.6.11)									
3	③ 品質	a. 鋼合管理強度は、1、2節のdによる。(6.12.3)	c. 仕上げの平坦さ (6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)				c. マクロ試験 (エンドタブ使用) ※行わない ・行う (7.6.11)									
6	1	① 一般事項	a. マスコンクリートの適用場所 ・設計図による (6.13.1) 設計図に記載がない場合でも、現場にて施工性を考慮の上、断面が大きくなるような処置を行う場合は、本項に従うこととする。目安として、壁状部材で800mm以上、マット状・柱状部材で1000mm以上を目安とする。	2	7	⑦ 一般事項	a. 鉄骨部材の接合部の剛性確保については特に注意し、施工誤差を含め、加工精度・組立制度など十分検討する。(6.2.5) (表6.2.3) (6.9.3)	7	2	8	9	⑨ 耐火被覆	a. 耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行う (意匠図による) ※行わない (7.8.3)			
			2				② 材料						a. セメントの種類 ※下表に示すコンクリートとする。(6.13.2)	b. 仕上げの平坦さ (6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)	b. 耐火被覆面への鎮止め塗装 ※行わない ・行う (適用箇所:) (7.8.3)	
			3				③ 品質						a. スラブ b. コンクリートの打込みから28日後までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正値下表による。(6.13.3)	c. 鋼材は原則として高力材を使用する。電炉材を用いる場合は監理者の承諾を得る。(6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)	表6.9.3 支柱の最小存置期間	
6	2	② 材料	a. セメントの種類 ※下表に示すコンクリートとする。(6.13.2)	3	8	⑧ 鋼材	a. 材質など	7	2	9	10	⑩ 耐火被覆	a. 耐火被覆			
			b. 使用可能な混和剤 ※A E 減水剤凝縮型または高性能 A E 減水剤凝縮型普通ポルトランドセメントを使用する場合は、6.13.2 (b) (2) を適用すること。				b. 鋼材の位置及び断面寸法の許容差 ※標仕表6.2.2による (6.2.5) (表6.2.3) (6.9.3)						a. 呼び名等 呼び名 呼び長さ (mm) 適用箇所 ・ 16 110 2F~4Fスラブの小梁 ・ 19 110 2F~4Fスラブラの大梁 ・ 22			
			c. 呼び強度は設計基準強度以上とする。(補正などは行わない)				c. 仕上げの平坦さ (6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)						b. 耐火被覆面への鎮止め塗装 ※行わない ・行う (適用箇所:) (7.8.3)			
6	3	③ 品質	a. スラブ b. コンクリートの打込みから28日後までの期間の予想平均養生温度によるコンクリート強度の補正値下表による。(6.13.3)	4	9	⑨ 鉄骨製作工場	※建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨センター又は(社)全国鋼構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める(H)グレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・監理職員の承諾する工場	7	2	9	11	⑪ アンカーボルトの保持及び埋込み工法	種類 ○ 構造用アンカーボルト (※図示) ・ 埋込み用アンカーボルト (・A種 ※B種 ・C種)			
			表. 構造体強度補正値 (S) の標準値				表6.9.3 支柱の最小存置期間						種類 ○ 耐火材 ・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式吹付けロックウール 意匠図による			
			表6.9.3 支柱の最小存置期間				種類 ○ 耐火材 ・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式吹付けロックウール 意匠図による									
7	①	① 一般事項	a. コンクリートの種類 (6.14.1)	1	10	⑩ 鋼材	a. 材質など	7	2	9	11	⑪ アンカーボルトの保持及び埋込み工法	種類 ○ 構造用アンカーボルト (※図示) ・ 埋込み用アンカーボルト (・A種 ※B種 ・C種)			
			種類				設計基準強度 Fc (N/mm ²)						所要スラブ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所	種類 ○ 耐火材 ・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式吹付けロックウール 意匠図による
			種類				設計基準強度 Fc (N/mm ²)						所要スラブ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所	種類 ○ 耐火材 ・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式吹付けロックウール 意匠図による
7	②	② 材料	a. せき板の材料 (6.9.3)	2	11	⑪ 高力ボルト	a. 高力ボルト	7	2	9	12	⑫ 既製品柱脚の施工	既製品柱脚を使用する場合は、製造所の仕様による。			
			種類				設計基準強度 Fc (N/mm ²)						所要スラブ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所	種類 ○ 耐火材 ・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式吹付けロックウール 意匠図による
			種類				設計基準強度 Fc (N/mm ²)						所要スラブ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	使用箇所	種類 ○ 耐火材 ・ 乾式吹付けロックウール ・ 半乾式吹付けロックウール ・ 湿式吹付けロックウール 意匠図による
8	①	① 一般事項	a. ひび割れ誘発目地 位置 ※建築設計図による 寸法 ※標仕 [9 . 6 . 3 (a) (1)] による ・設計図による	3	12	⑫ 高力ボルト	a. 高力ボルト	7	2	9	12	⑫ 既製品柱脚の施工	既製品柱脚を使用する場合は、製造所の仕様による。			
			b. 外部に面するコンクリート打直し仕上げの場合の打直し厚さ ※20mm ・25mm ・10mm mm				b. 高力ボルト						※鋼材は原則として高力材を使用する。電炉材を用いる場合は監理者の承諾を得る。(6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)			
			c. 内部に面するコンクリート打直し仕上げの場合の打直し厚さ ※10mm mm				c. 高力ボルト						※鋼材は原則として高力材を使用する。電炉材を用いる場合は監理者の承諾を得る。(6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)			
8	②	② 材料	a. せき板の材料 (6.9.3)	4	13	⑬ 高力ボルト	a. 高力ボルト	7	2	9	12	⑬ 高力ボルト	a. 高力ボルト			
			b. 合板の厚さ ※12mm ・15mm				b. 高力ボルト						※鋼材は原則として高力材を使用する。電炉材を用いる場合は監理者の承諾を得る。(6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)			
			c. スリーブの種類 ※標仕 [6 . 9 . 3 . (h)] 及び標仕 [表 6 . 9 . 1] による。				c. 高力ボルト						※鋼材は原則として高力材を使用する。電炉材を用いる場合は監理者の承諾を得る。(6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)			
8	②	② 材料	a. せき板の材料 (6.9.3)	5	14	⑭ 高力ボルト	a. 高力ボルト	7	2	9	12	⑭ 高力ボルト	a. 高力ボルト			
			b. 合板の厚さ ※12mm ・15mm				b. 高力ボルト						※鋼材は原則として高力材を使用する。電炉材を用いる場合は監理者の承諾を得る。(6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)			
			c. スリーブの種類 ※標仕 [6 . 9 . 3 . (h)] 及び標仕 [表 6 . 9 . 1] による。				c. 高力ボルト						※鋼材は原則として高力材を使用する。電炉材を用いる場合は監理者の承諾を得る。(6.2.5) (表6.2.4) (6.6.6)			

鉄筋コンクリート工事標準図 No.2

5.2 帯筋組立の形及び割付け



- H形を標準とする。
- フック及び継手の位置は、交互とする。
- 溶接する場合は溶接長さは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
- SP形において、柱頭及び柱筋の端部は1.5巻以上の添巻きを行う。
- H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。

図5.3 帯筋組立の形

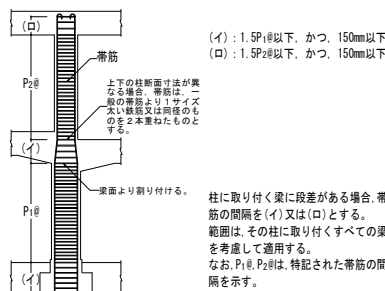
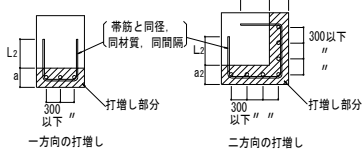


図5.4 帯筋の割付け

5.3 柱の打増し補強



- 柱の打増し幅 (a, a1) が70mm以上200mm以下の場合は補強を示す。
- 帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径、同材質、同間隔とし定着長さはL₂とする。
- 軸方向の補強筋はD16とし、間隔は300mm以下とする。

図5.5 柱の打増し補強配筋

5.6 梁の配筋

6.1 大梁主筋の継手、定着及び余長

- (a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
- 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、(2)により柱内に定着するものとする。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図6.11による。

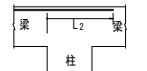


図6.1 梁主筋の梁内定着

- 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。なお、定着の方法は、3.4(a)(2)による。上端筋：曲げ降ろす。下端筋：原則として曲げ上げる。

- 段違い梁は、図6.2による。

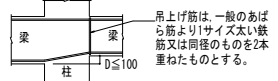
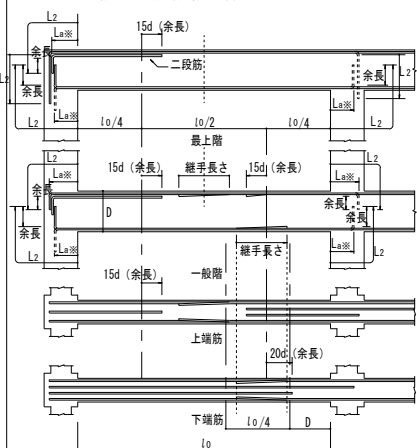


図6.2 段違い梁

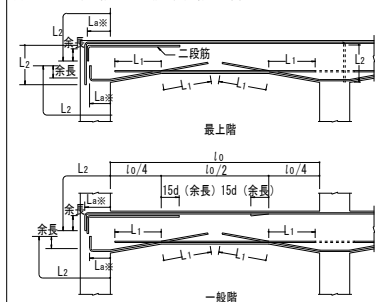
(b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長



- 継手中心位置は次による。上端筋：中央lo/2以内。下端筋：柱面よりせい(D)以上とし、lo/4を加えた範囲以内。
- 3.2(b)(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。
- 印は、継手及び余長を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。

図6.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

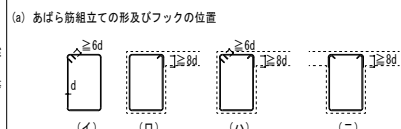
(c) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長



- 3.2(b)(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。
- 印は、継手及び余長を示す。
- 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、………のように引き通すことができる。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。

図6.4 ハンチのある大梁の定着及び余長

6.2 あばら筋組立の形及び割付け等



- (イ)形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
- フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
- なお、(ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げとする。

図6.5 あばら筋組立の形

(b) あばら筋の割付け

- 間隔が一律で、ハンチのない場合

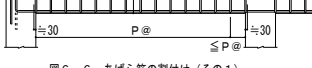


図6.6 あばら筋の割付け(その1)

- 間隔が一律で、ハンチがある場合

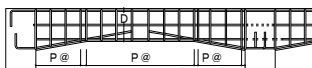


図6.7 あばら筋の割付け(その2)

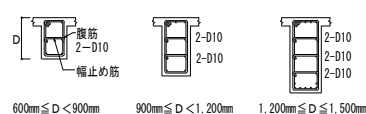
- 梁の端部で間隔の異なる場合



図6.8 あばら筋の割付け(その3)

- あばら筋は、柱面位置から割付けする。
- 図中のP₁、P₂は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

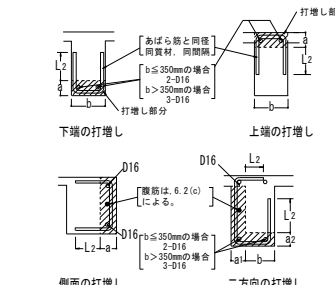
(c) 腹筋及び幅止め筋



- 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
- 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000程度とする。

図6.9 腹筋及び幅止め筋

6.3 梁の打増し補強



- 梁の打増し幅 (a, a1) が70mm以上200mm以下の場合は補強を示す。
- あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同径、同材質、同間隔とし、定着長さはL₂とする。

図6.10 梁の打増し補強配筋

6.4 小梁主筋の継手、定着及び余長

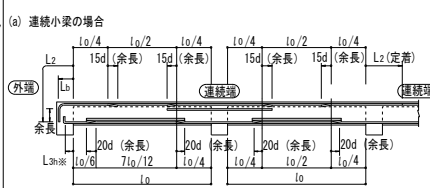


図6.11 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

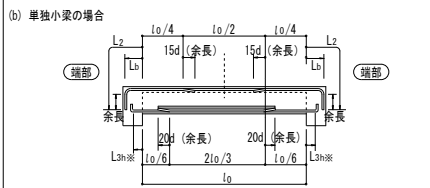
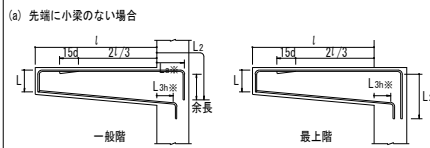


図6.12 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

- 印は、余長位置を示す。
- 梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
- 図示のない事項は、4.3及び6.11に準ずる。
- L₂を確認できない場合は、3.4(a)(2)によることができる。

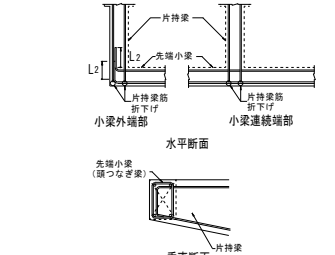
6.5 片持梁主筋の継手、定着及び余長



- 印は、余長位置を示す。
- 先端の折曲げの長さL₂は、梁せいからふり厚さを除いた長さとする。
- 図示のない場合は、6.11による。
- L₂の数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
- L₂を確認できない場合は、3.4(a)(2)によることができる。

図6.13 片持梁主筋の定着及び余長

(b) 先端に小梁がある場合



- 図示のない場合は、(a)による。
- 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
- 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図6.14 片持梁主筋の定着

9.7 壁及びその配筋

7.1 壁の配筋

- (a) 壁の配筋は表7.1による。

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W1.2	D10-200@シングル	120
W1.5A	D10-150@シングル	150
W1.5B	D10-100@シングル	150
W1.8A	D10-200@ダブル	180
W1.8B	D10-150@ダブル	180
W2.0A	D10-200@ダブル	200
W2.0B	D10-150@ダブル	200

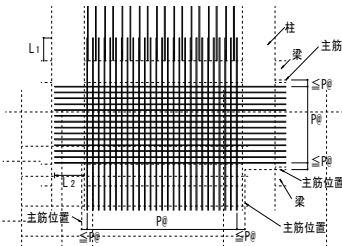
(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

- (b) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表7.2による。

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別 (表9.1)
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	KA.1 KA.3
	横筋	D10-200@ダブル	
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	KA.2 KA.4
	横筋	D10-200@ダブル	

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

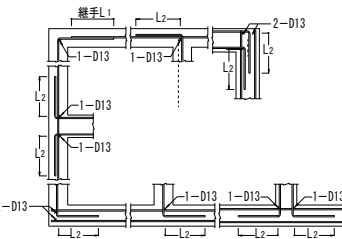
7.2 壁の継手及び定着



- 図中のP₁は、特記された壁筋の間隔を示す。
- 壁筋の重ね継手はL₁、定着長さはL₂とする。
- 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000程度とする。

図7.1 壁の配筋

7.3 壁の交差部及び端部の配筋



- ※ 端部の配筋の納まりについて、耐震壁の場合は図示による。

図7.2 壁の交差部及び端部の配筋

7.4 壁の開口部補強

- (a) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表7.3、B形は表7.4とする。

壁の種別	補強筋	
	縦筋	斜め
W1.2, W1.5	1-D13	1-D13
W1.8, W2.0	2-D13	2-D13

壁の種別	補強筋	
	縦筋	斜め
W1.2, W1.5	2-D13	1-D13
W1.8, W2.0	4-D13	2-D13

7.5 壁の打増し補強

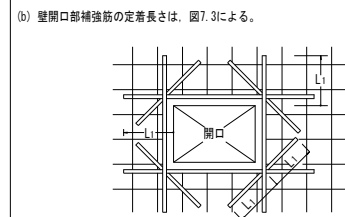
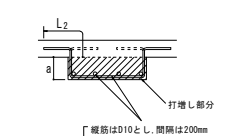


図7.3 壁開口部補強筋の定着長さ

- (c) 開口部が柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



壁の打増し厚さ(a)が50mm以上200mm以下の場合は補強を示す。

図7.4 壁の打増し補強配筋

7.6 パラベット

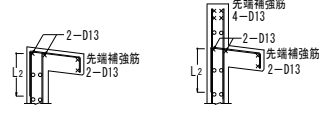


図7.5 パラベットの配筋

8.1 スラブの配筋

配筋種別	短辺方向(主筋)全域	長辺方向(配筋)全域
S1	D13-1.00@	D13-1.00@
S2	同上	D13-1.50@
S3	同上	D10, D13-1.50@
S4	D13-1.50@	D13-1.50@
S5	同上	D10, D13-1.50@
S6	同上	D10-1.50@
S7	D10, D13-1.50@	D10, D13-1.50@
S8	同上	D10-1.50@
S9	同上	D10-2.00@
S10	D10, D13-2.00@	D10, D13-2.00@
S11	同上	D10-2.00@
S12	同上	D10-2.50@
S13	D10-2.00@	D10-2.00@
S14	同上	D10-2.50@

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

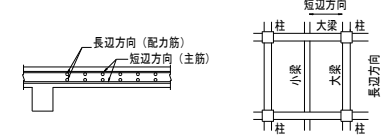
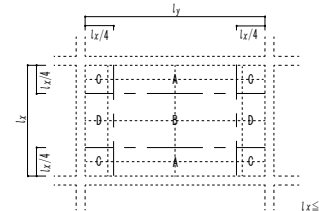


図8.1 スラブの配筋

- 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
- 鉄筋の重ね継手長さは、L₁とする。
- 継手位置は原則として表8.2による。べた基礎(前任スラブ)の継手位置は、上端筋と下端筋を積み替える。

表8.2 継手位置

上端筋	短辺方向	標準継手位置		短辺方向(主筋)
		B	D	
下端筋	短辺方向	A	B	長辺方向(主筋)
	長辺方向	A	C D	



鉄筋コンクリート工事標準図 No.3

8.2 スラブ筋の定着及び受け筋

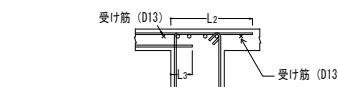
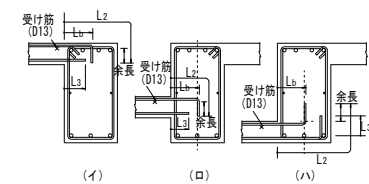


図 8. 2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)



一般スラブの場合

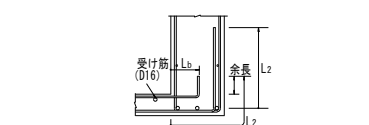
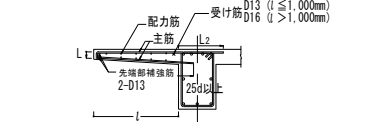


図 8. 3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)

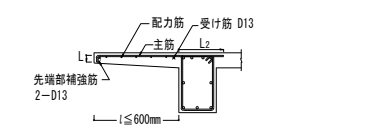
表 8. 3 片持スラブの配筋

配筋種類	主筋	配筋種別	主筋
CS1	上 D13-100@	CS5	下 D10-200@
CS2	下 D13-200@	CS6	下 D10-400@
CS3	上 D13-150@	CS7	下 D10-200@
CS4	下 D13-300@		
CS5	上 D10, D13-150@		
CS6	下 D10, D13-300@		
CS7	上 D10, D13-200@		
CS8	下 D10-200@		



- 1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- 2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

図 8. 4 片持スラブの配筋(CS1からCS5)



- 1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
- 2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

図 8. 5 片持スラブの配筋(CS6及びCS7)

8.4 片持スラブの先端に壁が付く場合の配筋

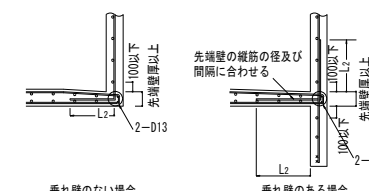


図 8. 6 先端に壁が付く場合の配筋

8.5 スラブの開口部

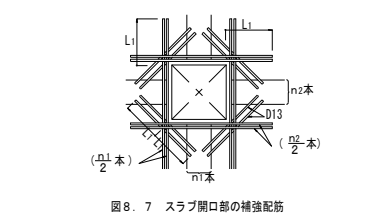


図 8. 7 スラブ開口部の補強配筋

- 1. スラブ開口部によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13(1=2L)シングルを上下筋の内側に配筋する。
- 2. スラブ開口部の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を斜めに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 3. スラブ開口部の最大径が700mm以下の場合に限る。

8.6 出隅部及び入隅部の補強

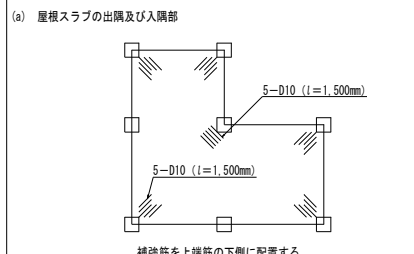


図 8. 8 出隅及び入隅部の補強配筋

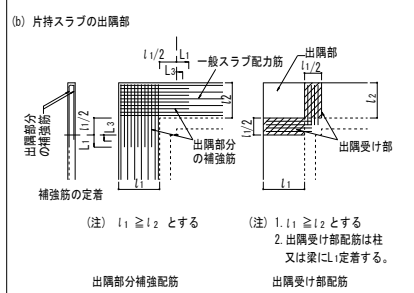


図 8. 9 片持スラブ出隅部の補強配筋

8.7 スラブの打継ぎ補強等

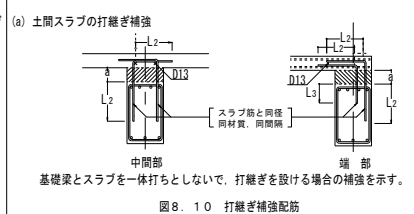


図 8. 10 打継ぎ補強配筋

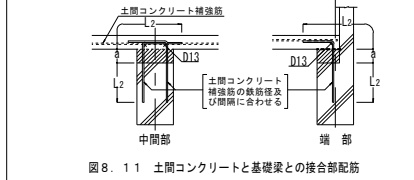


図 8. 11 土間コンクリートと基礎との接合部配筋

- (1) 土間コンクリートとは、土に接するスラブのうち、床荷重を直接支持地盤へ伝達できるものをいい、それ以外を土間スラブとして、梁及び柱を介して基礎へ荷重を伝達するものとする。
- (2) aが300mm以下の場合に限る。

8.8 段差のあるスラブの補強

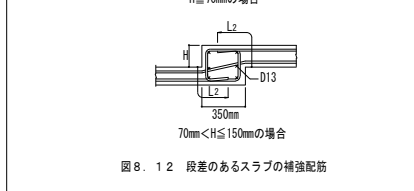


図 8. 12 段差のあるスラブの補強配筋

8.9 階段の配筋

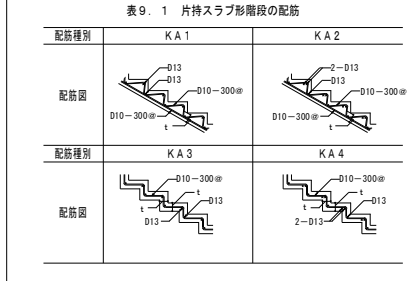


表 9. 1 片持スラブ階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		

配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

9.2 二辺固定スラブ形階段の配筋

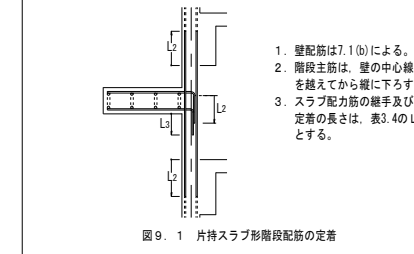


図 9. 1 片持スラブ形階段配筋の定着

表 9. 2 二辺固定スラブ形階段

配筋種別	上補筋	下補筋(全域)
KB1	D13-200@	D13-150@
KB2	D13-150@	D13-100@
KB3	D13-100@	D13-150@
KB4	D13, D16-150@	D16-150@
KB5	D16-150@	D16-125@
KB6	D16-125@	D16-100@
KB7	D16-100@	D16-100@

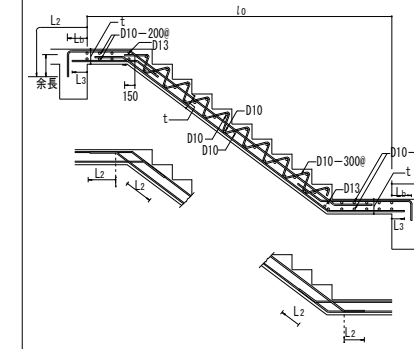


図 9. 2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)

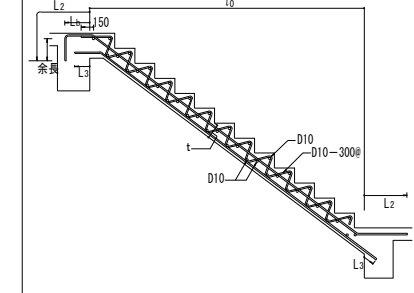


図 9. 3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

9.10 梁貫通孔及びその他の配筋

- (a) 大臣認定による既製品を使用する場合
適用条件はすべて認定内容に定める。また、計画通知等の変更手続きが必要となる場合には、請負者が必要な書類等を作成すること。
- (b) (a)以外の場合
(1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図 10.1による。
(2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
(3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部は梁下端よりD/3(Dは梁せい)の範囲には設けなければならない。
(4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
(5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(6) 縦筋及び上下補筋は、あばら筋の筋に配筋する。
(7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図 10.2による。
(8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
(9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(10) 溶接金網の貫通部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

9.11 ガス圧接

- 11.1 一般事項
この節は、鉄筋を酸素・アセチレン炎を用いて加熱し、圧力を加えながら接合するガス圧接に適用する。
- 11.2 ガス圧接作業を行う技能資格者
(a) ガス圧接作業は、技能資格者が行う。
(b) 技能資格者は、JIS 3381(鉄筋のガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)に従って試験に合格し、その能力を有する者とする。
(c) (a)及び(b)以外は、「種仕」1.5.3による。
- 11.3 圧接部の超音波探傷試験
(a) 11.10(b)の圧接部の超音波探傷試験は、技能資格者が行う。
(b) 技能資格者は、JIS 3381(鉄筋の超音波探傷試験の原理及び方法等)について十分な知識及び経験に基づき能力を有する者とする。
(c) 圧接部の超音波探傷試験を行う技能資格者は、当該工事における圧接部の品質管理を行っている者とする。
(d) (a)から(c)まで以外は、「種仕」1.5.3による。
- 11.4 圧接部の品質
圧接後の圧接部の品質は、次による。
(a) 圧接部のふくらみの直径は、鉄筋径(径の異なる場合は細い方の鉄筋径)の1.4倍以上であること。
(b) 圧接部のふくらみの長さは、鉄筋径の1.1倍以上とし、その形状がなだらかであること。
(c) 圧接部のふくらみにおける圧接部のずれは、鉄筋径の1/4以下であること。

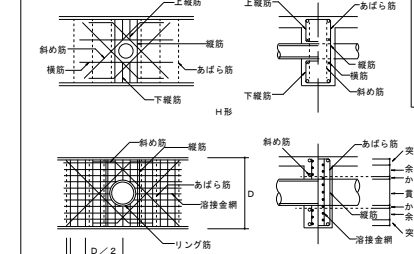


図 10. 1 梁貫通孔補強筋の名称等

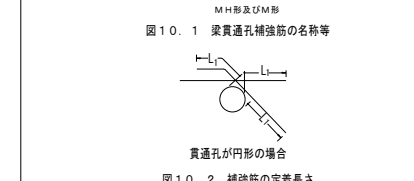


図 10. 2 補強筋の定着長さ

表 10. 1 H型配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下補筋	配筋図
H1	なし	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	なし	なし	なし	
H5	4-2-D16	なし	なし	なし	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	なし	なし	なし	

表 10. 2 M型配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	なし	
M2	4-2-D13	なし	なし	
M3	4-2-D13	なし	2-6φ-100@	
M4	6-2-D13	なし	2-6φ-100@	

表 10. 3 MH型配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2	2-2-D13	2-2-D13	なし	
MH3	2-2-D13	なし	2-6φ-100@	
MH4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH5	4-2-D16	なし	なし	
MH6	4-2-D16	なし	なし	
MH7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100@	

(注)は、一般部分のあばら筋を示す。

鉄骨工作標準図 (1) 2019年度版

§1 一般事項

- 1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
- 2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書1-2-4, 5に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
- 3) 製作精度等に関しては、JASS6の付則6「鉄骨精度検査基準」による。
- 4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

§2 共通事項

- | | | | |
|-------|-----------|--------|-------------|
| ○ AB | アンカーボルト | ○ BH | 組立てH形鋼 |
| ○ BE | ベースプレート | ○ CHE | チェッカープレート |
| ○ DP | ダイヤフラム | ○ FB | フラットバー |
| ○ FE | フランジプレート | ○ GE | ガセットプレート |
| ○ HTB | 高力ボルト | ○ RE | リッププレート |
| ○ SE | スプライスプレート | ○ TB | ターンバックル |
| ○ WE | ウェブプレート | ○ W1-9 | 溶接記号(§4 参照) |

§3 ボルト接合

ボルトの長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ FBT, F1QT, S1QT	S1QT
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40

1. 特記以外はすべてS1QT(トルシア形高力ボルト、上図)又はF1QTとする。
2. 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの兼用はしてはならない。
3. ボルトの接合面の処理は、締め付け摩擦面を平グライNDER掛け等を行い、黒皮を除去して一様に赤さびを自然発生させる。ただし、ショットブラスト等を行った場合はこの限りでない。締付けは1次締め後、マーキングを入れてから本締めをする。
4. 亜鉛メッキボルトの場合は、すべてFBTとする。

高力ボルトのピッチ

呼び径	M 16				M 20				M 22				M 24				
	標準	最小	最大	はしあき	標準	最小	最大	はしあき	標準	最小	最大	はしあき	標準	最小	最大	はしあき	
ピッチ	60	40	60	e	60	40	60	e	60	40	60	e	60	40	60	e	
最小端距離	28	22	34	せん断線、手動ガス切断線	28	22	34	せん断線、手動ガス切断線	34	26	38	せん断線、手動ガス切断線	44	28	32	44	せん断線、手動ガス切断線

() 内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。

千鳥打ちのピッチ b

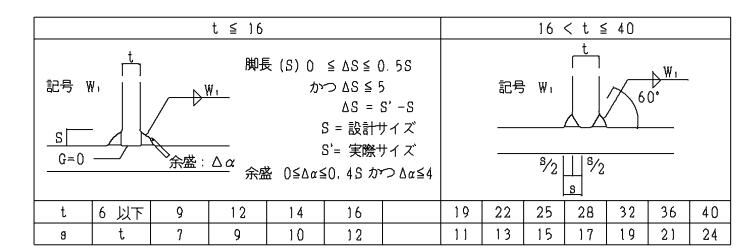
ゲージ	M16, 20, 22		M24
B*	35	50	65
	40	45	60
	55	25	45

形鋼のゲージ

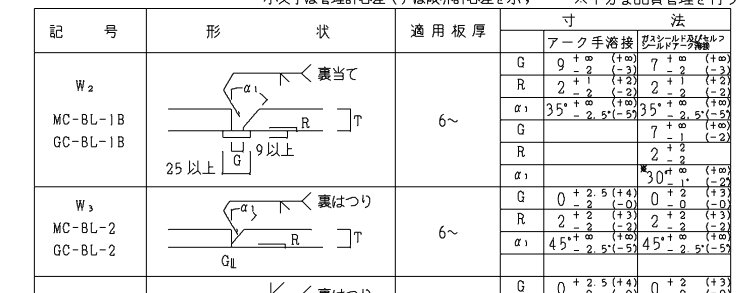
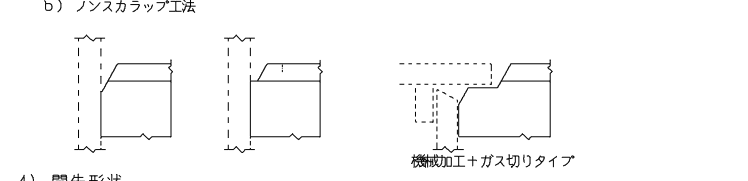
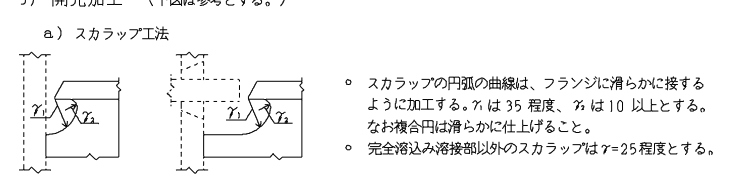
A or B	g ¹	g ²	最大軸径	B	g ¹	g ²	最大軸径	B	g ¹	g ²	最大軸径
**50	30		16	**100	60		16	**50	30		16
60	35		16	125	75		16	65	35		20
65	35		20	150	90		22	70	40		20
70	40		20	175	105		22	75	40		22
75	40		22	200	120		24	80	45		22
80	45		22	250	150		24	90	50		24
90	50		24	*300	150	40	24	100	55		24
100	55		24	350	140	70	24				
125	50	35	24	400	140	90	24				
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

* B = 300 は千鳥打ちとする。
** 印の g¹ の g¹ 及び最大軸径の値は強度上支障がないとき最小端距離の規定にかかわらず用いることができる。

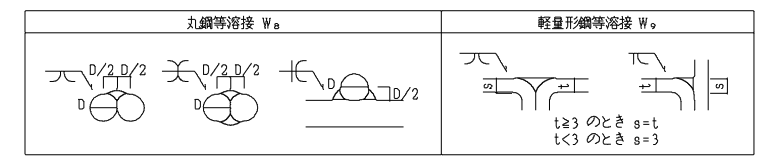
§4 溶接接合



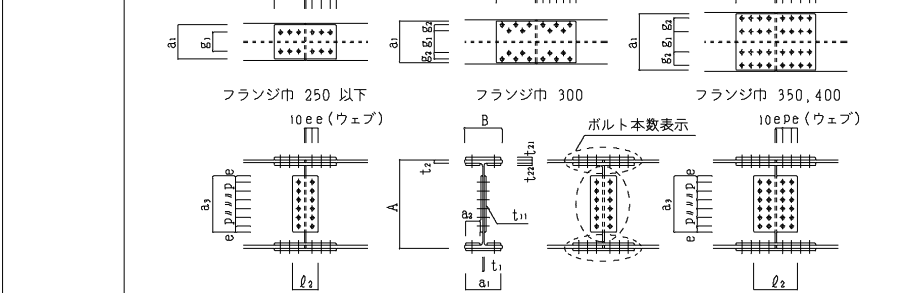
- 1) 板厚の異なる場合 (通しダイヤフラムは除く)
 - 完全溶込み溶接 (突合せ溶接)
 - クレーンガーダーの場合は、全て2.5倍以上の勾配をとる。
- 2) エンドタブ
 - 両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。長さ l は 35 以上かつ薄い方の板厚の 2 倍以上とする。エンドタブを切断する場合溶接終了後母材より 5~10mm はなして切断する。代替タブを採用する場合は溶接技量付加試験に合格した溶接工によること。エンドタブ、裏当て金の組立て溶接は右図による。



- 4-4 フレア溶接
- 4-5 その他

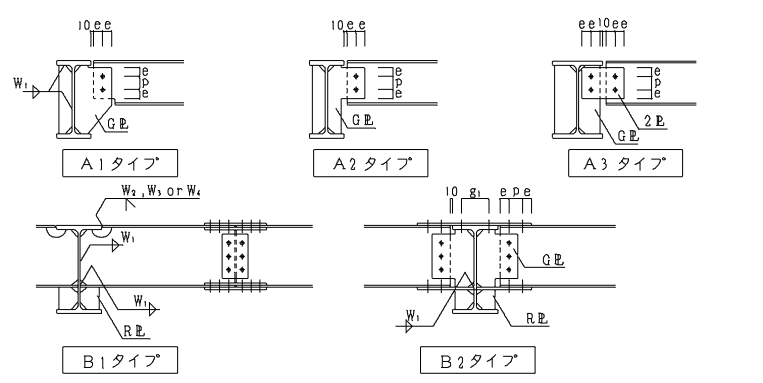


§5 継手



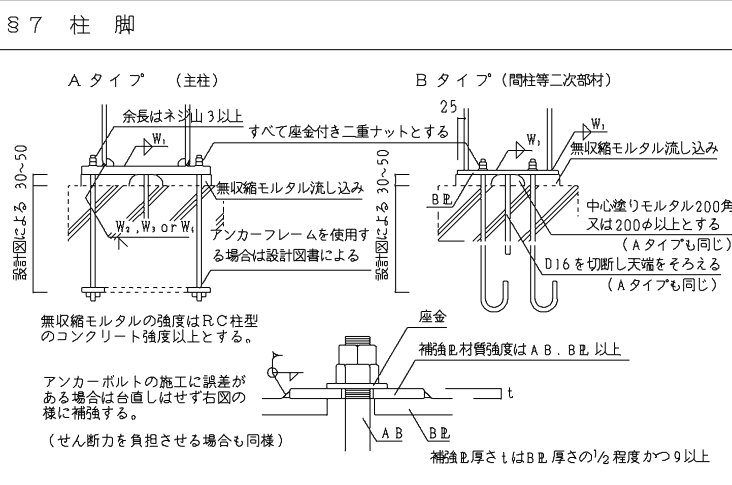
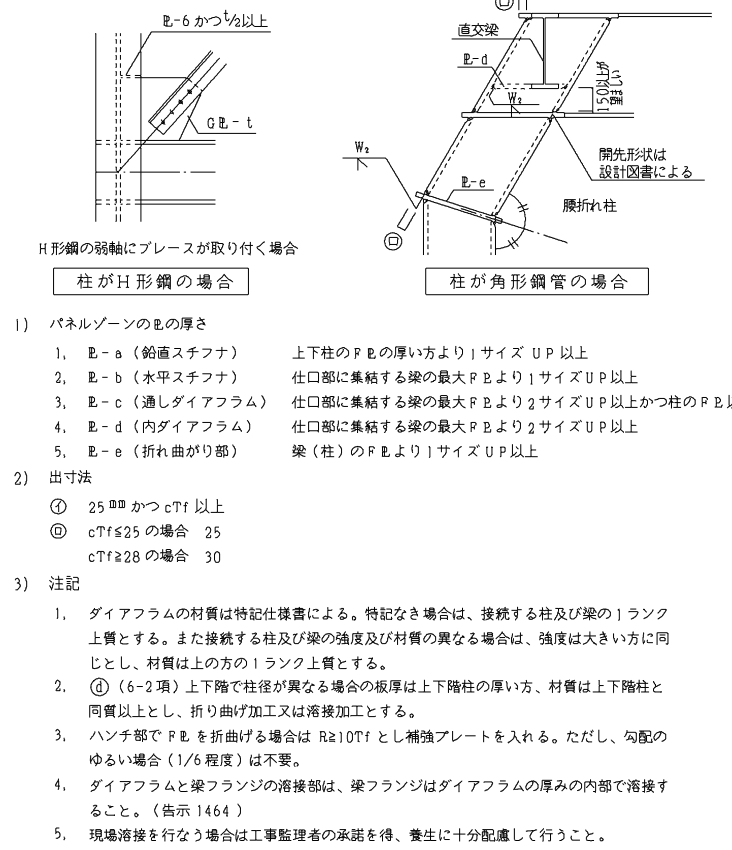
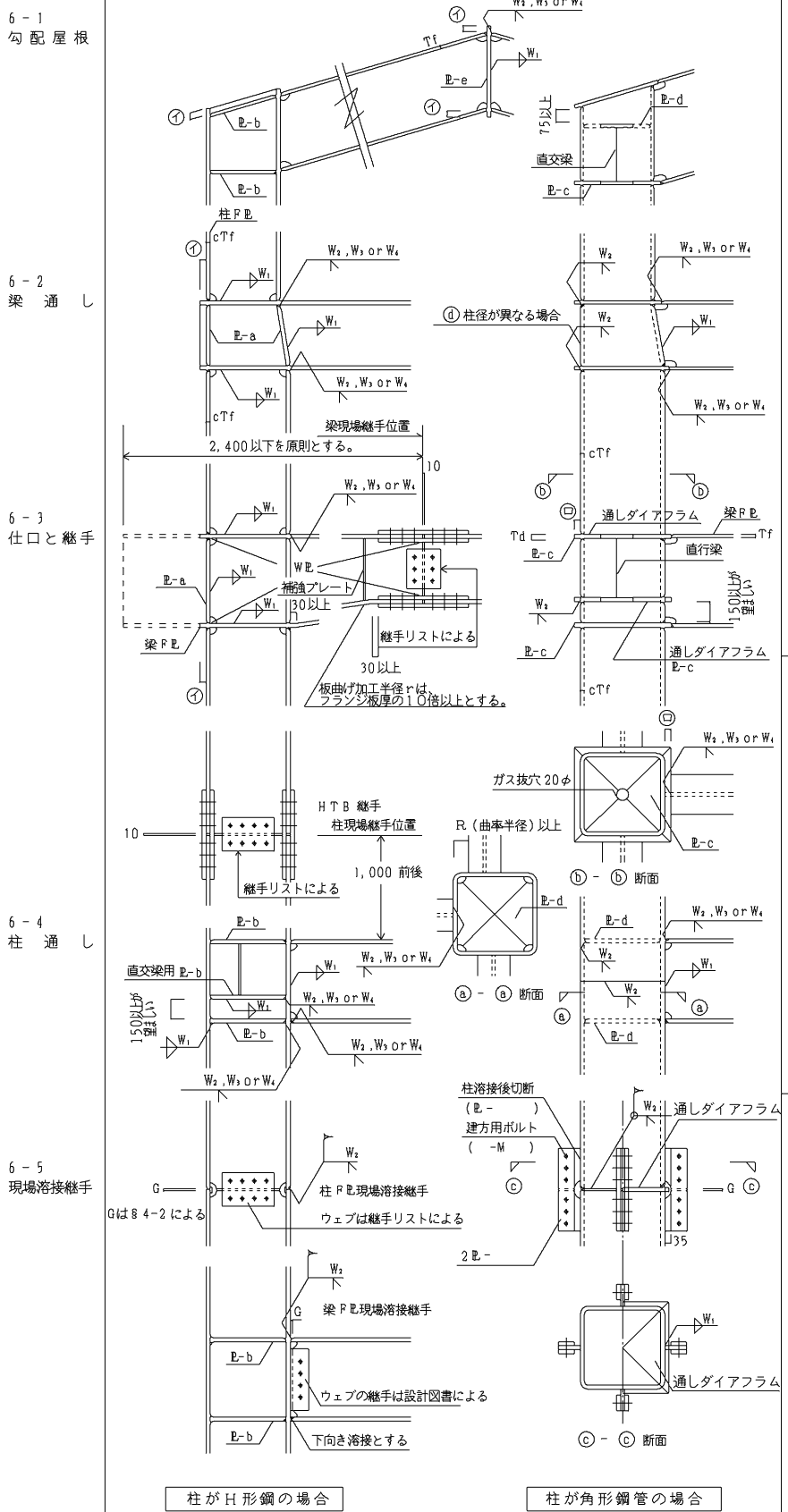
1. フランジ E₁ 面もしくはウェブ E₂ 面で、段差 1mm を超える場合は、フィラー E₃ を入れて調整すること。
2. a₃ は原則として梁成の 2/3 以上確保すること。

- 5-2 小梁仕口
- ピン接合 A タイプ
- 剛接合 B タイプ



1. G₁, R₁ は材種、版厚とも小梁の W₁ と同等以上とする。
2. 継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

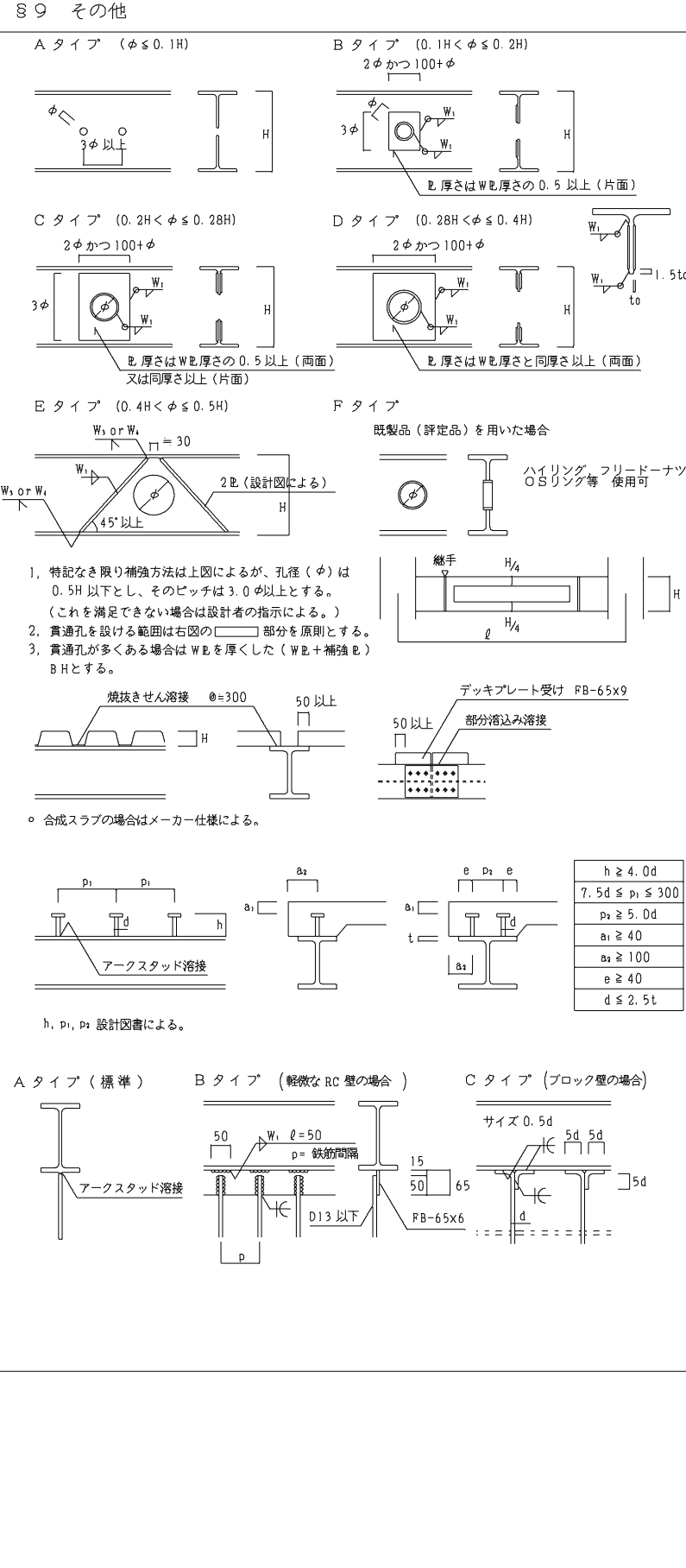
8.6 柱梁接合部及び継手

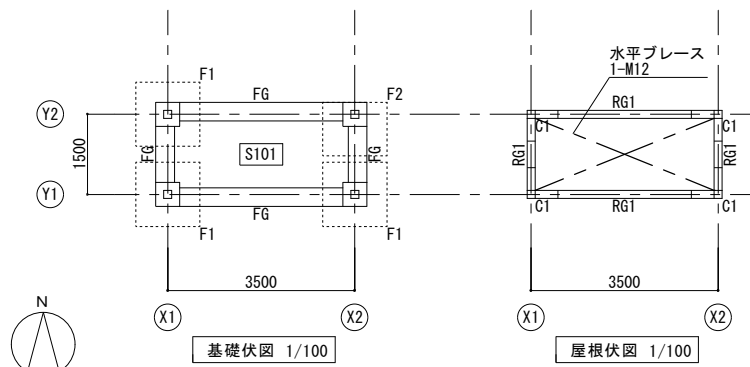


8.8 壁面ブレース

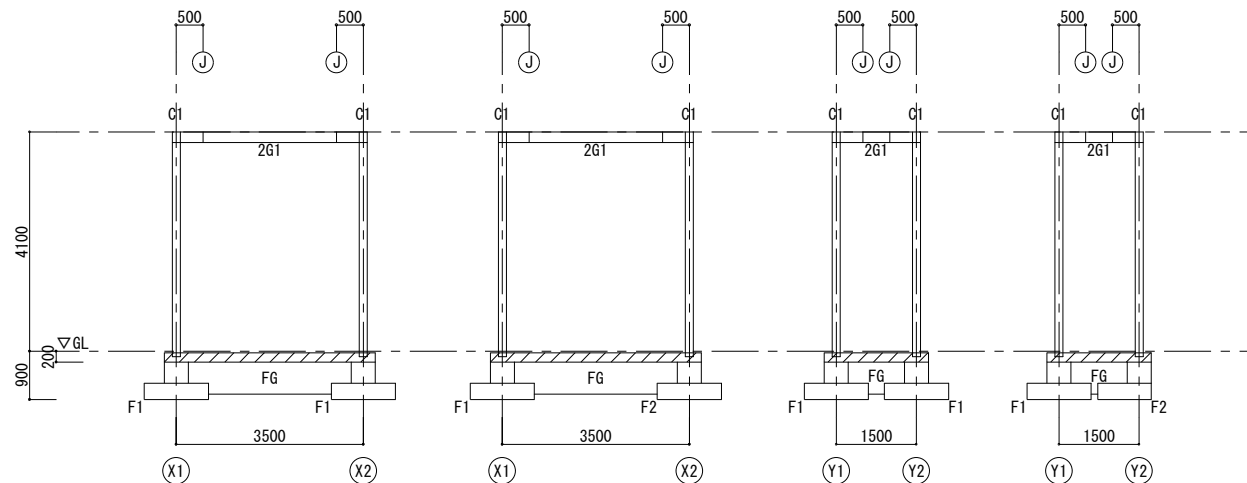
符号	部材	高力ボルト		溶接	
		径	本数	t	脚長

1. GEの最小幅 ℓ_e が確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
2. 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共 JIS規格品を使用する。
3. 床面ブレースは設計図面に明記なき場合は壁面に準ずる。





※特記なき場合下記による
 ・地中梁天は、GL-200 とする。
 ・S101 天端は、GL-30 とする



※特記なき場合下記による
 ・Ⓧ は、ジョイント位置を示す。
 ・斜線は、梁上増打を示す。

1. 地業

施工区分	捨てコンクリート	砂利地業
地中梁下	50	60
基礎下	50	60
土間コン下	50	60

2. コンクリートの設計基準強度

施工区分	設計基準強度	スラブ
1階構造スラブ	24 N/mm ²	15 cm
地中梁・基礎	24 N/mm ²	15 cm
捨てコン	18 N/mm ²	15 cm

3. 鉄筋

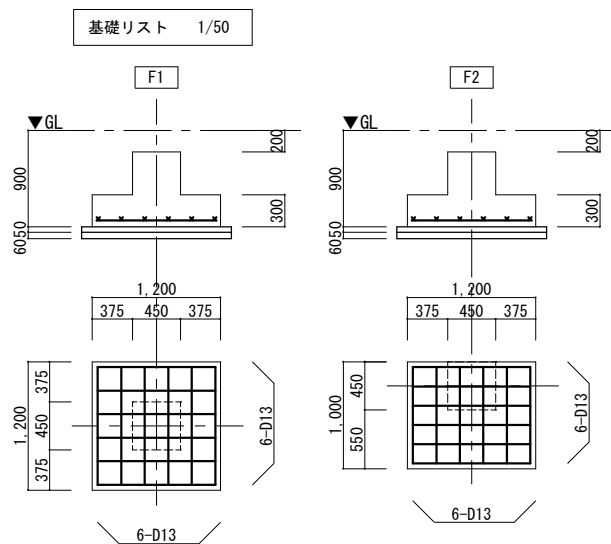
施工区分	種別	継手
D19以上D25以下	SD345	圧接継手
D16以下	SD295A	重ね継手

4. 鉄骨

施工区分	材種	ボルト
柱	STKR400	-
アンカーボルト	ABR490	-
ベースプレート	SN490C	-
ダイアフラム	SN490C	-
大梁・小梁剛接端	SN400B	F8T
小梁(上記以外)	SS400	F8T
その他	SS400	-

5. 基礎

形 式	直接基礎
長期地耐力	50 kN/m ²



柱リスト 1/30 (Column List 1/30)

符号	C1	
1階	□-150×150×6 (STKR400)	
柱脚詳細		
BASE. PL	PL-28×400×400 (SN490C)	
A. BOLT	8-M20 L=400 (ABR490)	
備 考	A. BOLT : Wナット フック付き	
基礎柱	断面寸法	450 × 450
主 筋	8-D22	
帯 筋	□-D13@150	

地中梁配筋図 1/30 (Underground Beam Reinforcement Diagram 1/30)

符号	FG
位置	全 断
断面	
B × D	350 × 600
上端筋	3-D22
下端筋	3-D22
あばら筋	□-D13@200
腹 筋	2-D10

鉄骨大梁リスト 1/30 (Steel Beam List 1/30)

符号	RG1	H-194x150x6x9
継手断面		
フランジ	16-M16	2PL- 9x150x290 4PL- 9x60x290
ウェブ	4-M16	2PL- 6x140x230

鉄骨小梁リスト 1/30 (Steel Joist List 1/30)

符号	水平ブレース
部 材	1-M12
姿 図	
	ターンバックル付き JIS規格品

床版リスト (Slab List)

符号	版 厚	位 置	短辺方向	長辺方向
S101	150	上端筋	D10, D13 @200	D10 @200
		下端筋	D10 @200	D10 @200

